

## 議 事 録

- 1 会議の名称 平成26年度第1回水戸市都市交通戦略会議交通体系部会
- 2 開催日時 平成26年10月27日(月) 午後3時00分から午後5時00分まで
- 3 開催場所 水戸市議会臨時庁舎2階 全員協議会室
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員
- (名簿順)
- 茨城大学工学部都市システム工学科 金 利昭  
茨城交通(株) 火口内 宏一  
関東鉄道(株) 廣瀬 貢司  
関鉄グリーンバス(株) 長谷川 貞仁  
ジェイアールバス関東(株)水戸支店 寺門 勉  
水戸市住みよいまちづくり推進協議会 大関 茂  
公募市民 米倉 彩乃  
公募市民 根本 貴彬  
公募市民 野原 香里  
国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所 飯田 寛之  
茨城県企画部企画課 山浦 俊一  
茨城県土木部水戸土木事務所 原部 修一  
茨城県土木部都市局都市計画課 仙波 義正  
茨城県水戸警察署 鈴木 優  
水戸市市長公室 小田木 健治  
水戸市建設部 大森 幹司  
水戸市都市計画部 川崎 洋幸  
水戸商工会議所 深谷 邦夫

※欠席2名

- (2) 事務局
- 【市長公室 地域振興課】**  
課長 川崎 幹男, 技正兼課長補佐 太田 達彦,  
副参事兼課長補佐 須藤 文彦, 地域開発係長 川俣 和彦,  
地域開発係 主事 小林 健典, 主事 森 敬之

- 5 会議次第
- (1) 交通体系部会の設置
- (2) 役員を選任
- (3) 交通体系部会の検討施策
- (4) 調査・研究
- ア 重点施策の抽出

イ 重点施策の検討

ウ 公共交通ビジョンを構成するキーワードについて

(5) その他

## 6 配布資料

平成26年度第1回水戸市都市交通戦略会議交通体系部会資料

## 7 内容

	<p>※ 設置後初めての会議となるため、委員の了解を得て、事務局長が議長選出までの進行を務めた。</p>
	<p><b>1 開会</b></p>
事務局長	[開会のあいさつ、会議設置の趣旨等について説明]
各委員	[設置後、初めての会議となるため、自己紹介]
事務局長	まず、本日の出席者数について事務局から報告させる。
事務局	本日は、定数20名中18名が出席である。
事務局長	事務局報告のとおり、過半数の出席であるため、水戸市都市交通戦略会議規約第7条第2項の規定を準用し、本会議は成立している。 次に、会議の内容について、冒頭から終了時まで公開としてよいか。
委員	[異議なしの声]
事務局長	本会議は公開とする。 本日の会議録については、公開前に各部会員宛て送付のうえご確認いただくこととする。
	<p><b>2 交通体系部会の設置</b></p>
事務局	[別紙資料2～3ページに基づき、交通体系部会の設置根拠等について説明]  [質問等なし]
	<p><b>3 役員の選任</b></p>
事務局	[別紙資料4ページに基づき、役員の選任について説明]
委員	事務局に一任することとしたい。
事務局	事務局としては、_____様に部会長を、_____様に副部会長をお願いしたいと考えているがいかがか。
委員	[異議なしの声]

	<p>役員を選任については、事務局案のとおり決定した。</p> <p>※ 水戸市都市交通戦略会議規約第7条第1項の規定を準用し、部会長は会議の議長となるため、以後の進行を部会長に交代した。</p>
事務局	<p><b>4 交通体系部会の検討施策</b></p> <p>[別紙資料4～5ページに基づき、交通体系部会の検討施策について説明]</p> <p>【意見、質疑等】</p>
委員	<p>別紙資料5ページにおいて、公共交通ビジョンは水戸市都市交通戦略会議において検討することとなっているが、これを定めなければ施策を検討していくことが難しいのではないかと考える。</p> <p>公共交通ビジョンの策定作業は、どのタイミングで行うのか。</p>
事務局	<p>第2回の全体会議において、基本方針を「全ての人々が安心して移動できる交通体系の実現」とし、施策の検討と並行して将来のあるべき姿である公共交通ビジョンを検討することが決定した。</p> <p>本年度の専門部会の調査・研究事項としては、「重点施策の抽出及び事業計画の概要作成」、「公共交通ビジョン（案）の作成」の2点であり、その検討結果を今年度末に開催予定である第3回全体会議に諮る予定である。</p>
部会長	<p>ビジョンとはどのようなものか、具体的な説明を願いたい。</p>
事務局	<p>ビジョンは将来のあるべき姿であり、図や絵で表示する手法もあるが、事務局としては、文章で表現していきたいと考えている。</p> <p>文章を読めば、目指す方向性が分かる表現となるよう取りまとめていきたい。</p> <p>本日の作業として、水戸市にとって公共交通のあるべき姿を表現する際に使うべきキーワードについて意見をいただければと考えている。</p>
部会長	<p>基本方針である「全ての人々が安心して移動できる交通体系の構築」というのは総合計画に位置付けられているものであり、ここまでが水戸市として決定しているところである。</p> <p>公共交通ビジョンについては、部会で協議の中で決めていきたい。</p> <p>水戸市はこれまで交通施策を具体的に検討していなかったため、新たな気持ちで公共交通に関する施策に取り組んでいくものと理解している。</p> <p>交通体系部会で検討していく施策について、交通施策は利用促進の面と切っても切り離せない部分もあるため、両専門部会の検討施策については柔軟に対応していくこととなる。</p>
事務局	<p><b>5 調査・研究</b></p> <p>[別紙資料6～9ページに基づき、調査・研究事項について一括説明]</p> <p>【意見、質疑等】</p>
部会長	<p>水戸市都市交通戦略会議第2回全体会議において、地域公共交通再編事業を重点施策として検討することが決定された。</p>

	<p>本日は、これ以外に、この交通体系部会において重点的に検討していくべき施策を、別紙資料5ページに記載されている施策体系図の中から抽出していきたい。</p> <p>個人的な感覚としては、重点施策である地域公共交通再編事業と、施策2-3「バスサービスの充実」にある運行本数の増便、運行時刻の見直し、施策4-3「都市構造を支える公共交通体系の構築」にある拠点地区間を結ぶバスルートの創設等については、並行して実施しなければならない施策と考えている。</p> <p>重点施策として検討していくべき施策について、委員の皆様の意見を求めたい。</p>
委員	<p>事務局案をたたき台として提示いただいた方が、議論の進行が早いのではないかと。</p>
部会長	<p>ここでどのようなご意見をいただくべきか、事務局から再度説明を願う。</p>
事務局	<p>第1回目の開催であるので、委員の皆様がそれぞれの立場で感じていることについて、意見として存分に出していただきたいと考えている。</p> <p>今回いただいた意見を基に事務局案を作成し、第2回目の交通体系部会においてそれを提示させていただきたいと考えている。</p>
委員	<p>3点提案させていただきたい。</p> <p>まず、対象者別の施策として、観光客向けとなるが、統一的な情報提供のあり方を検討していただきたい。</p> <p>昨年末、テレビ番組において、水戸駅周辺を取材していたレポーターがどの路線バスに乗り込むか分からなくて苦労していた様子が放送されていた。</p> <p>情報提供のあり方としては、マンパワーによるものもありうるし、検索システムという手法もあるかと考える。</p> <p>2点目は、高齢者・障害者向けの施策となるが、デマンド型乗合いタクシーのあり方について検討していただきたい。</p> <p>県内では24市町村がデマンド型乗合いタクシーを実施しているが、利用者の中には、バス停留所までの距離が100メートル程度であっても、その距離を歩けず、デマンド型乗合いタクシーを利用している例もある。</p> <p>一方で、福祉有償運送等を利用されている方もおり、高齢者・障害者向けの交通施策は必ず福祉施策との連携が求められるため、事務局は、福祉部門とどのような役割分担をするのかも十分に検討していただきたい。</p> <p>3点目については、地域別施策となるが、広域的な交通としての視点をお持ちいただきたい。</p> <p>当然に水戸市民向けの公共交通のサービスを確保していくことは必要であるが、水戸市は周辺市町村から人口が流入する都市であることから、地域公共交通再編事業にあたっては、周辺市町村との連携を考えるべきである。</p>
事務局	<p>情報提供のあり方については、利用促進部会の重点施策として検討していく予定である。</p> <p>しかしながら、利用促進部会で調査・研究を進めるうえで、既存の複雑な交通体系は表示が非常に困難であることから、地域公共交通再編事業と併行として施策を進めることとなるかと考える。</p> <p>2点目のデマンド型乗合いタクシーの導入については、新たな交通手段の導入の必要性を検討する中で、整理していきたい。</p> <p>3点目の周辺市町村との連携については、水戸市内の交通体系を整理した後に、検討していかなければならないものかと考える。</p>
委員	<p>東京方面から友人が来る際に、公共交通を利用して水戸市の観光案内をしようとしたところ、乗継ぎが不便であることから断念し、他の手段で移動したことが</p>

	<p>ある。</p> <p>現在、路線バスの乗継ぎは特に時間効率や運賃制度が不便であると感じることから、利便性の向上を図っていただきたい。</p> <p>また、乗継ぎには交通結節点の待合環境の整備が必要である。</p> <p>事務局は地域公共交通再編事業に着手したい考えのようだが、全ての地域に路線バスを走らせることは非現実的であり、中心市街地等利用者の多い路線バスの系統を幹線とし、周辺地区についてはフィーダー系統として扱う等の階層化が必要と考える。</p> <p>この地域公共交通再編事業については、交通結節点の設置位置、幹線の設定等について、事務局からモデル案が提示されるのか。</p>
部会長	<p>乗継ぎの利便性の向上に関しては、利用促進部会の所掌事項に位置付けているものの、この交通体系部会が所掌するバスサービスの充実に深く関係する事項であるため、両専門部会が一体となって検討していかなければならないと考える。</p> <p>地域公共交通再編事業に係る考え方については、事務局から説明を願う。</p>
事務局	<p>別紙資料8ページに、第2回全体会議に示した熊本市の事例を掲載させていただいているのでご覧いただきたい。</p> <p>来年度策定する公共交通基本計画の中で、地域公共交通再編事業の内容をどのように表現するかは未定であり、議論が必要である。</p> <p>別紙資料8ページ中に表現されているように、イメージ図を掲載するのか、さらに詳細な図を掲載するかは、特に交通体系部会における議論の進捗状況に左右されると考える。</p>
委員	<p>公共交通基本計画の中で、周辺市町村を含めた交通体系の整理が必要であるとの意見が挙げたが、どこまで範囲を広げて議論を展開していけば良いのか。</p> <p>範囲を広げ過ぎると、整理する内容や要望が多くなると考える。</p> <p>事務局は、本計画が扱う範囲について、どう考えているのか。</p> <p>また、水戸市第6次総合計画では、このような問題をどのように位置付けているのか。</p>
事務局	<p>現在も市域に跨る路線バスの系統が存在することから、市域内の系統と市域外のそれを完全に分けることはできないものの、公共交通基本計画の中で扱うエリアは水戸市域としたい。</p>
委員	<p>水戸市第6次総合計画においては、「全ての人が安心して移動できる交通体系の実現」という目標を掲げ、交通体系を確立するよう整理している。</p> <p>10年間という限られた期間の中、今後人口減少社会を迎えるにあたって、水戸市においてもコンパクトなまちづくりが必要である。</p> <p>都市空間整備の基本的方向として「魅力・活力集積型スマート・エコシティ」を掲げており、中心市街地を中心とした既成市街地に人口の集積を図り、JR赤塚駅、JR内原駅周辺については、日常の生活拠点としての機能性を高めていくこととしている。</p> <p>公共交通基本計画の策定においては、周辺地域に存在する公共交通空白地域への対応も必要であるが、重点的に扱う地域を選択し、作業を進める必要があると考える。</p> <p>路線バスをはじめとした公共交通で守備できる範囲には限界があるため、その範囲外の地域については、福祉的な視点で施策を検討していく必要がある。</p>
部会長	<p>公共交通空白地域に対するバス事業者の考え方を伺いたい。</p>

委員	<p>公共交通空白地域においても路線バスを運行していただきたいという要望はいただくが、路線バスが走っていれば便利だという考えで要望しているだけで、運行を開始しても、実際には乗っていただけないというケースがある。地域住民の移動手段を確保するために広く路線バスを運行して差し上げたいが、現実的な話をさせていただくと、事業者にとっては採算性の確保も重要である。</p>
部会長	<p>この水戸市都市交通戦略会議が設置され、利用者の利便性向上、まちの活性化に向けて、色々な公共交通関係の施策を考えていくこととなった。 事業者が現在抱えている問題や、それを解消するために必要なことについて、意見を挙げていただきたい。</p>
委員	<p>先程意見が挙げたが、公共交通空白地域に対応していくのか、中心市街地に対応していくのか等、地域を絞って議論を進めていかなければならないと考える。 また、事業者にとっては、やはり施策の採算性が重要な要素であるので、その点に留意していただき、ご検討いただきたい。</p>
委員	<p>弊社は、この水戸市都市交通戦略会議において決定した事項について協力していきたいと考えてはいるものの、地方のバス事業者であるので、対費用という面で、実現できないところがある。 具体的には、ICカードの導入等の要望を利用者からいただくこともあるが、実現は難しいところである。 できる範囲のところから、協力させていただきたいと考えている。</p>
委員	<p>行政の方から、公共交通のビジョンとそれを実現させるための施策を提案されれば、なるべく協力していきたいと考えている。 弊社としては、各地方拠点の魅力を高め、それを大都市に発信するというところについて取り組んでいるところである。 水戸市の魅力を掘り下げ、そこから水戸市の活性化につながる地方ネットワークについて考えていきたい。</p>
部会長	<p>他の委員さんからも広く意見をいただきたいと考えるがいかがか。</p>
委員	<p>超高齢社会においては、病院へのアクセスが重要であると考えます。 その中で、水戸済生会総合病院、水戸赤十字病院等は、公共交通の利便性が高い状況であるが、茨城町にある水戸医療センターは、公共交通の利便性が低いのではないのかと考えている。 特に、内原駅からの移動の利便性が低いため、赤塚駅から運行している系統を、内原駅まで延伸してみてもどうか。 また、質問であるが、バス事業者は、赤字では運行しないということか。</p>
委員	<p>施策上発生した赤字について、県・市の補助をいただけるのであれば、赤字が見込まれても協力はできると考える。 しかしながら、住民の要望を受けて路線バスを運行したものの、実際には利用していただけないケースが現実的にあるように、公共交通の需要量を計ることは、なかなか困難であることをご理解いただきたい。</p>
部会長	<p>水戸市は、中心市街地における公共交通の利用者は多く、自然的に路線の採算性が確保されるものの、中心市街地を少し離れるだけで成り立たないという特徴がある。 今後、路線を設定していく際には、利用状況等のデータを十分に分析していか</p>

委員	<p>なければならない。</p> <p>同時に、利用しなければ公共交通の維持はできないことを利用者にご理解いただく取組みも必要である。</p> <p>第1回の全体会議における水戸市長の意見では、「コンパクトシティの実現」、「公共交通における市民・行政・事業者の協働」、「中心市街地の土地の高度利用化」の3点が挙げられていた。</p> <p>公共交通ビジョンについては、この要素を取り入れるべきだと考える。</p> <p>重点施策に位置付けている地域公共交通体系の再編、それに伴う運行本数の増加、時刻表、運賃の見直し、交通結節点の配置等は必要と考えている。</p> <p>複数のバス事業者が全く同じ路線を運行している状況は、複数の時刻表を検索する必要も出てくるため、非常にわかりにくいものである。</p> <p>また、これは知人の体験ではあるが、バス事業者に問い合わせた際、他社の運行情報については案内していただけなかったことや、非効率的な案内をされたことがあったということで、バス事業者が他の事業者の運行情報を把握するなど、対応する施策が必要であると考えている。</p> <p>系統番号による情報提供のあり方について、同会社の系統番号が①と②の2種類存在する等、改善が必要であると考えている。</p> <p>さらに、運賃の値下げは必要であると考えている。</p> <p>他県に比べて運賃が高いかどうかは不明であるが、1日500円で駐車場料金が済んでしまう状況で、往復の運賃がそれを超える状況では、環境面、健康面から公共交通の優位性を訴えても、車利用からの転換施策は効果が小さいのではないかと考える。</p> <p>各地で、料金を半額にしたところ、利用者が倍増したという例もよく聞くことから、事業者間の料金競争も必要ではないかと考える。</p> <p>また、郊外に住んでいる方については、ターミナルに駐車場を用意し、パークアンドライドを推進していく必要もあると考えている。</p>
部会長	<p>このように、利用者にとっては、改善していただきたい点が多々あるということである。</p> <p>実施すべき施策は多くあるが、事務局としては、戦略的に、施策に優先順位をつけて推進していきたいと考えている。</p> <p>このことから、特に優先的に施策として位置付けるべきものについては、どのようにお考えか。</p>
委員	<p>モビリティマネジメントの実施、ワークショップの開催等により、市民に公共交通の利用であるとか、水戸市がコンパクトシティの形成を目指していること等を訴える施策が必要と考える。</p> <p>また、公共交通を整備しても、目的地がなければ公共交通の利用者は増加しないことから、中心市街地の魅力向上施策も必要であると考えている。</p>
部会長	<p>公共交通施策の推進は、事業者の改善努力と、利用者の公共交通を支える意識こそが両輪である。</p> <p>このことから、モビリティマネジメントの実施、ワークショップの開催等は、重要であると考えている。</p> <p>他の意見はないか。</p>
委員	<p>利用促進部会の検討施策となるが、路線バス内の電光掲示板は、運賃や停留所が分かりやすいことから、バス事業者にぜひ導入を進めていただきたい。</p> <p>また、バス停留所に路線バスの運行ルートを載せていただきたいと考える。</p>
委員	<p>本日、委員から様々な意見を聞く中で、新規の路線バスの運行等に関する要望</p>

	<p>が挙げられたが、要望に従って施策を検討すると、内容が後退する恐れがある。</p> <p>水戸市の公共交通は、鉄道軸を基幹としているが、それ以外の公共交通に階層化がなされていないという問題がある。</p> <p>公共交通の階層化を基本として公共交通ビジョンを検討していかなければ、施策が逆行していくのではないか。</p>
委員	<p>路線バスという水戸市の公共交通の資源を大事にいただき、その中であるべき姿を検討していただきたいと考える。多くの地域で、コミュニティバスやデマンド型乗合タクシーを導入しているが、必ず路線バスとの競合が発生している。</p> <p>導入当初は、路線バスと競合しないようルートを設定するが、住民の要望に応えるうちに、路線バスのルートを侵食し、路線バスを衰退させてしまうというケースが非常に多い。</p>
部会長	<p>コミュニティバスの費用が増大し、行政が負担しきれない状況になっても、撤退することもできない自治体が見受けられる状況である。</p>
委員	<p>路線バスを失った自治体が、もう1度路線バスを運行できないか苦心している様子も見受けられる。</p> <p>路線バス事業者と協議を重ね、より良い路線バスのあり方について検討していただきたい。</p>
委員	<p>施策「都市構造を支える公共交通体系の構築」については、ぜひ検討していただきたい。</p> <p>赤塚駅、内原駅周辺の地域生活拠点は、JR常磐線によって鉄道で結ばれている状況である。</p> <p>拠点がどこまでを指すのか定義は難しく、そういった拠点ではないが、医療機関の中の総合病院系について、特に水戸市南側の方々が通院するための路線バスの充実が必要であると考えてるので検討していただきたい。</p>
委員	<p>病院施設は、乗換えの拠点候補ではないかと考えている。</p> <p>新たな乗換え拠点を作ることは困難であり、既存の施設を有効活用するべきと考える。</p> <p>地域公共交通再編事業は、そのような考えをもって検討を進めるべきと考える。</p>
部会長	<p>住宅地から医療機関への移動の利便性確保は重要である。</p> <p>会議終了予定時刻となったため、ここで事務局に進行をお返しする。</p>
事務局	<p>様々な意見をいただきありがとうございました。</p> <p>本日いただいた意見を踏まえ、公共交通ビジョン（案）及び事務局が必要と考える施策を提案させていただきたい。</p>
委員	<p><b>6 その他</b></p> <p>最後に、水戸商工会議所が作成した「まちなかしっかりデザイン」における公共交通のビジョンを紹介させていただきたい。</p> <p>キャッチコピーは、「市民が楽しく暮らすための新しい交通システムが欲しい」というものであり、水戸駅北口からつながる国道50号線を皆さんが歩いて楽しめるまちにするため、現在4車線である国道50号線を2車線にするという構想である。</p> <p>時間制限で一旦車両を排除し、路線バスとタクシーだけが運行する。</p>



	<p>自転車レーン及び駐輪場を作り、コミュニティサイクルを活用する。  休日には、歩行者空間とし、イベント開催を行う。  交通ネットワークとしては、大工町に水戸駅北口と同等レベルの規模のターミナルを設けて、このターミナルを拠点とする構想である。  水戸駅～大工町ターミナル間をシャトルバスが運行し、ターミナルから各方面に路線バスが運行する仕組みである。  偕楽園と千波湖という地域資源を中心市街地と含めて考えていくと、観光ルートを周回するための新しいバス路線が必要であると考えます。  ぜひたたき台としていただきたいが、あくまでも中心市街地に限ったものであり、この案で水戸市全体の問題が解決するものではないので、ご留意願いたい。</p>
部会長	<p>自由な意見ではあるが、市民からの意見として、自家用車の利用から公共交通の利用への転換が前面に押し出されているという点は、評価できるものである。</p>
委員	<p>また、大工町、泉町、南町、水戸駅周辺、全体でワークショップを行った際に、国道50号線の2車線化に対する反対意見はなかったことをお伝えしたい。</p>
委員	<p>国道50号線の2車線化については、商店街の駐車車両による渋滞が懸念される。</p>
委員	<p>国土交通省は、道路の有効活用に対する占有条件の緩和を進めているので相談を受けられるが、直轄国道の場合は、災害時の緊急輸送路に指定されているので、国道50号の2車線化が災害時にどのような影響を及ぼすか検討しなければならない。  今後、整理してお話する。</p>
委員	<p>これからのまちづくりにおいては、コンパクトなまちを形成していくことが求められている。  施策の時間軸をある程度見据えながら、進めていかなければならない。  公共交通離れは深刻な問題であるため、子どもたちに公共交通の重要性を伝えることも重要であると考えます。  地域住民の要望を基に運行を開始しても、実際には利用していただけないというケースに対応するため、バス事業者、行政、地域住民の3者が協議を行い、地域住民が負担金を支払うことで運行を開始した事例もある。  全国には、様々な事例があるため、それらも参考にしたい。</p>
事務局	<p><b>7 閉 会</b></p> <p>本日いただいた意見を基に、次回は事務局のたたき台をお示しすることとなる。  第2回交通体系部会は、来年1月の開催を予定しているので、よろしくお願いしたい。</p>